

寄贈16mm映画フィルム 無料上映会

趣旨

高知県を舞台にした16mm映画フィルムを令和元年度に寄贈いただいたことを記念し、2本の映画を上映することで、県民の皆さまに映画の中に映し出された昭和30～40年代の高知県に触れていただく。

上映映画

■南国土佐を後にして

1959年製作 78分 配給:日活

主演 小林旭

出演 浅丘ルリ子、ベギー葉山、中原早苗、高野由美

西村晃、南田洋子、金子信雄、二本柳寛、内田良平
ストーリー

賭博の名手である原田謙司(小林旭)は、かつてダイスの目と呼ばれ、暗黒街の賭博を左右していた。そんな原田も警察につかまり、無事に刑期を終えて、母親と恋人の待つ故郷・高知に向かっていた。原田はベギー葉山の『南国土佐を後にして』を刑務所内で聞き、特攻隊で死んだ兄に思いを馳せるようになってから、すっかり心を改めたのだった。だが、そんな原田が帰郷してみると、恋人の春江(浅丘ルリ子)は重ねてしまった借金のために、ヤクザの北村(内田良平)との結婚を迫られていた。

昭和30年代の高知市(高知港、港通り、高知城下町、はりまや橋、高知大丸、高知公共職業安定所、関西汽船棧橋、天神橋、吸江湾、桂浜)や室戸市(室戸岬)などで撮影されています。

■孤島の太陽

1968年製作 106分 配給:日活

主演 榎山文枝

出演 勝呂誉、宇野重吉、前田吟、芦川いづみ、二木てるみ
浜村純、桑山正一、鶴丸睦彦、下条正己、三崎千恵子
ストーリー

高知県の南端、豊後水道に浮かぶ沖ノ島を舞台にした実話である。保健婦の荒木初子が、島で唯一の駐在保健婦として沖ノ島に赴任したのは昭和24年の春だった。人口千人足らずの沖ノ島は、乳児死亡率全国平均の四倍、それに風土病フィラリアの発生地でもあり、島全体が古い因習から抜けきらず貧窮と病苦に喘いでいた。島民の初子への風当たりは強かったが、一日も早く信頼を得るため、初子の限りない献身が続けられた。やがて頑なだった島民たちの態度も変わりはじめ、初子の努力も実を結び、乳児死亡率も減少の一途をたどることとなった。

昭和40年代初めの宿毛市(市街、鶴来島、沖ノ島、傘鉾祭り)などが撮影されています。沖ノ島ロケでは、島民総出でエキストラ出演したそうです。沖ノ島では出演者、スタッフの宿泊に苦勞したようで、NHK連続テレビ小説でも主演をした榎山文枝もロケ中は地元小学校の教員宅に寄宿していたそうです。

9月3日(木)～5日(土)

午前の部

午後の部

『南国土佐を後にして』

【9時45分～11時5分】 【13時30分～14時50分】

『孤島の太陽』

【11時15分～13時5分】 【15時～16時50分】

会場 オーテピア高知図書館4階ホール
(高知市追手筋2丁目1番1号)

定員 各回60名以内

入場料 無料

※各上映日の9時15分より、オーテピア高知図書館4階ホール前でその日の入場券を一人一枚配付します。

【お願い】

- ・入場はマスク着用の方のみです。
- ・入場前の検温で37.5℃以上の発熱のある方は入場をお断りします。

〈問い合わせ先〉

高知県生涯学習支援センター
〒780-0850 高知市丸ノ内1-1-10
(高知県立公文書館3階)
電話 088-855-7606
開館日 月・火・木・金
8時30分～17時15分